コミュニケーション

2006・7月号

OMORIYAMA ZOO NEWS 大森山

No.72

チンパンジーの親子

画：佐藤一男

秋田市大森山動物園
Akita Omoriyama Zoo

1 ライオン３兄弟

2 イヌワシ３兄弟

3 トナカイの赤ちゃん誕生

4 アビシニアコロブスの赤ちゃん誕生

5 ワピチの赤ちゃん誕生

6 サル山大改造

訃報 母親ライオン「ララ」死亡

４月26日、ライオンの親子展示訓練中に母親のララが展示場で急に倒れ、懸命の緊急処置にもかかわらず、残念ながら死亡。

ララは、初めての出産にも関わらず３つ子の赤ちゃんを大切に育て、その子煩悩ぶりは担当者も目を細めるほどのほほえましい姿であった。亡くなる前日の４月25日には初めてララと３頭の赤ちゃんが展示場に姿を現すなど、順調な訓練ぶりに安心していただけに残念でならない。あまりに急なことではっきりしたことはわからないが、いくつかの所見からあまりに強い母性愛があだとなり、ショックを起こしたようだ。

３兄弟は順調に成長中。ララよ、安らかにお眠り。

HOT INFORMATION

ほっといんふぉめーしょん

❶ ライオン３兄弟

３月６日、ライオン夫婦に赤ちゃんが生まれた。母さんライオンのララは死亡してしまったが（下記訃報参照）赤ちゃんたちは元気に成長中。今では展示場を所狭しと駆け回り、やんちゃぶりを発揮している。

❷ イヌワシ３兄弟

２月から３月にかけて３個の卵が産まれ、４月には無事にヒナとなったイヌワシ３兄弟。ヒナ同士のケンカなど紆余曲折を経て、ようやく巣立ちを迎えた。日本初となるイヌワシ３兄弟の繁殖は全国に誇れる大森山動物園の偉業である。
（詳細はＰ４の特集参照）

❸ トナカイの赤ちゃん誕生

オスのトナカイがやって来て２度目の春を迎えた今年、待望の赤ちゃんが２頭生まれた。生まれた頃はひ弱で立つのもおぼつかない様子だったが、今では元気に母親の後をついて回っている。

❹ アビシニアコロブスの赤ちゃん誕生

５月17日、８年ぶりにアビシニアコロブスに赤ちゃんが生まれた。生まれて間もなくは真っ白で、まるでぬいぐるみのよう。大きくなるにつれ、体には黒い部分が増え、大人と同じ模様になっていく。ぬいぐるみのような姿をみられるのは今だけ。

❺ ワピチの赤ちゃん誕生

昨年に引き続き今年もワピチに赤ちゃんが生まれた。成長すると体重300kgを超す大型のシカだが、生まれて間もないころは背中に斑点があり、まるでアニメのバンビそのもの。

❻ サル山大改造

人気のエサやりスポット「サル山」に新たな仕掛けが登場。お猿さんたちがお客さんの目の前に迫り来るようにと丸太とステップを設置。ますます魅力アップしたサル山でお猿さんと会話を楽しんでみてはいかが。

カメの島

資料館前に新たに造られたカメの島。大きなケヅメリクガメ２匹にとって狭いながらも自然あふれる大地のはずだったが、思いの外穴掘り上手の彼らによって島は穴だらけ。本来穴にすむ彼らにとっては自然の姿なのだろう。

シュバシコウ繁殖

別名ヨーロッパコウノトリのシュバシコウ。煙突などに巣を作り子育てすることで有名な鳥。現在大森山では元気にヒナが成長中。

特集　ニホンイヌワシの３羽孵化

飼育展示担当　佐々木祐紀　高橋広志　安永千秋

●３羽の孵化

2006年４月、大森山動物園のニホンイヌワシに３羽のヒナが誕生しました。ニホンイヌワシが３個の卵を産んで、しかも３羽とも孵（かえ）るのは国内で初めてのことです。しかし、快挙に沸いたのも束の間、３羽すべてのヒナを育てる上でいろいろな問題が出てきました。

●３羽のヒナを育てる上での問題

１　ヒナどうしのケンカ

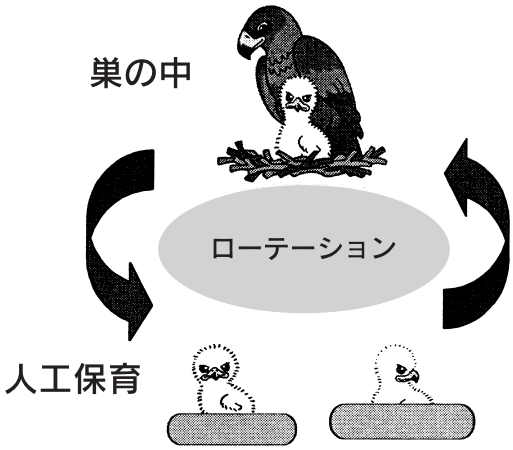
野生のニホンイヌワシは通常２個の卵を産みますが、たとえ２羽のヒナが孵ってもほとんどの場合１羽だけしか育つことができません。なぜならイヌワシのヒナは、孵った直後から死闘を繰り広げて、強いヒナだけが生き残るという習性を持っているからです。餌が乏しい野生下では、ヒナが共倒れしないために必要な自然の摂理ですが、せっかく生まれた３羽のヒナがケンカで死んでしまっては元も子もありません。

２　人工保育の弊害

ケンカに敗れたヒナを人工保育する、という方法も考えられます。しかし人の手で育てられたイヌワシは、本来の行動やコミュニケーションの方法を親から学んでいないため、大きくなって他のイヌワシと一緒にしても上手くいかない場合が多く、たとえ姿かたちは同じでもイヌワシとして受け入れられない鳥になってしまいます。

そこで、ヒナ同士のケンカを避けながら、親子の関係を失わずかつ人に馴れすぎないよう３羽のヒナ全てを育てるために、特に初めの頃は力の強い方のヒナの一時的な人工保育を取り入れた”ローテーション育雛法”という方法を考案しました。

●ローテーション育雛法



●ヒナ同士のケンカを避けるため、巣には１羽のヒナだけ残し、他の２羽は別々のスペースで、人に馴れすぎないように気を付けながら一時的に人工保育します。

●ただし、どのヒナも巣を忘れることなく親鳥との関係を保ちながら育つように、数日に１度はヒナをローテーションさせ巣に戻すようにします。

●ヒナの成育

親との絆

巣にいる間はどのヒナも親から十分に餌をもらって、小さい間は羽根の下に抱かれて親鳥のぬくもりを感じながら育ちます。大きくなるにつれて、イヌワシとして生きていくための教育を受けます。

親からエサをもらうところ

人工保育

ヒナが親鳥との関係を保ちながら成育するには、人工保育の間にとにかく人に馴れ過ぎない事、イヌワシとしての自覚を失わない事が重要となります。そのために、環境づくりや餌の与え方を工夫しました。

餌を与えているところ↑

〈東京都多摩動物公園のご好意でお借りしたパペット↑〉

人の姿が見えないように、厚手の布で覆った保育器の中でヒナを育てます。餌を与える時も、保育器上部の小さな穴から中の様子をうかがいながら、イヌワシの頭に似せた人形“パペット”を使います。

保育器の中の様子

温度や湿度の管理はもちろんですが、ヒナが親鳥や巣の事を忘れないように、巣内と同じ環境の音を流し続けます。

●無事育った３羽のヒナ

巣の中で同居した３羽のヒナ

ヒナがケンカする習性は幼い時に激しく、成長するにつれて収まっていくと考えられています。ローテーション育雛法によってケンカを避けながら育った３羽のヒナ達は、５／23、ふ化後39－47日経ってようやく巣の中で同居させることができました。あとは親の愛情をたっぷり受けながら成長して、すべてのヒナが“イヌワシとして”巣立ってくれることを心から願っています。

（６月29日　無事３羽とも巣立ちました。）

飼育日報より

12/13 ☃ アナグマ、冬ごもりのため本日より給餌を中止する。
12/15 ☃ レッサーパンダ今年生まれの３つ子を初めて雪の積もった展示場へ出す。
12/16 ♣ アシカ「マヤ♂」体に湿疹がでる。
12/18 ☃ ダイアナモンキー「ウメ♀」多臓器不全のため死亡。
12/21 ☼ イヌワシ「風華♀」予備室に移動し「鳥海♂」と同居。体重 4.220g
オオカミ５頭の同居を展示場でおこなう。
12/22 ♣ チンパンジー「J 太郎」生後1ヶ月が経過、体重 2.25kg 順調に成育中。
12/23 ☃ F. ケージの側面ネット、雪の重さで破れる。
12/25 ☃/☂ ツキノワグマ親子３頭、冬ごもりの気配無し。
レッサーパンダ「健健♂」胆嚢炎のため死亡。
12/27 ☃ チンパンジー「ココの子♂」ハイハイができるようになった。
ビルマニシキヘビ骨格標本組み立て開始。
12/28 ♣/☃ イヌワシ舎に巣材を直接投入し繁殖に備える。
コウノトリ「タイサ♂」義嘴外れる。
（装着から 20 日目）
1 / 6 ☼/♣ ビーバー「母」循環不全のため死亡。
1 / 7 ☃ オオカミ５頭同居展示、闘争が見られ「ハチ」負傷。
本日より「冬の開園」１・２月の土日祝日
1 /15 ☼ オオカミ「サラ」が新着２頭と闘争し頭部から耳裏まで負傷。麻酔下で縫合手術を行う。
1 /16 ♣/☂ マーコール「コウ♂」敗血症のため死亡。
1 /20 ☃ イヌワシ、交尾時の鳴き声を確認する。
1 /21 ♣/☃ イヌワシ２度交尾行動を映像で確認する。
1 /25 ☼/♣ ツキノワグマ、冬ごもり状態を確認したところ「母」死亡していた。
1 /27 ♣ シフゾウ「マリー♀」採食が無く動きが鈍いため室内に冬囲いをして治療を行う。
2 / 3 ☃ ノドジロオマキザル性別確認と個体識別のため入れ墨を入れる。
カナダヤマアラシ「マリモ♀」真菌治療のため入院棟へ移動。
2 / 8 ☃ ベンガルトラの「マドンナ♀」とアムールトラの「ウィッキー♂」の同居を実施する。
♂が♀に好意的に近づくと♀に激しく威嚇される。
2 /11 ♣ ビルマニシキヘビ骨格標本完成。明日から展示開始。
2 /16 ♣/☂ ショウジョウトキ♂１溺死。
2 /19 ☼ チンパンジー「ココの子♂」下の門歯２本生えていた。「J 太郎♂」下の門歯、歯茎から少し覗いていた。
2 /23 ☼ ツキノワグマ、動きが活発になってきたため本日から給餌開始。（冬ごもり終了）
2 /25 ☼ イヌワシ 17:15 に１卵目の産卵を確認する。
3 / 1 ☃/☂ イヌワシ 16:50 に２卵目の産卵を確認する。
3 / 4 ☼/☂ ペンギンＣペア抱卵確認。
3 / 5 ☼/☂ イヌワシ３卵目の産卵を確認する。
ペンギンＡペア抱卵確認。
3 / 6 ♣/☂ ライオン「ララ」３頭出産。
3 / 7 ☼ アフリカタテガミヤマアラシ「ワヤ♀」歯茎が化膿し麻酔下で手術を行う。
3 / 9 ライオンの赤ちゃん性別確認および体重測定。
（♂1.60kg、♂1.75kg、♀1.65kg）
イヌワシ「風華」多摩動物公園へ搬出。
体重 4.560g
3 /12 カンガルー「パサージュ♀」出血性胃腸炎のため死亡。
3 /14 ☃ ミニブタ「ケー」循環障害のため死亡。
3 /15 ☼/♣ ムフロン「アニー」出産。
3 /22 ☼ ポニー「セレナ♀」、シロフクロウ♀搬入。
3 /26 ☂ ワピチ（オス）落角。
3 /31 ☃/♣ プレーリードッグ１♂、ショウジョウトキ１羽、リスザル１♀搬入。
4 / 3 ☂ ホオアカトキふ化。
4 / 7 ☼/♣ イヌワシ「第１ヒナ」ふ化。（2月 25 日産卵）
4 / 8 ☂ カナダヤマアラシ繁殖。（生後体重 640g、性別♂）
4 /10 ♣ カナダヤマアラシ８日生まれの赤ちゃん死亡。
4 /11 ♣ ニホンイヌワシ「第２ヒナ」ふ化。（3月１日産卵）
4 /12 ☼ キョン（♂２、♀２）、シロシチメンチョウ（♀２）大島公園より来園。
4 /15 ☼ イヌワシ「第３ヒナ」ふ化。（3月５日産卵）
4 /18 ☂/♣ F．ケージ側面ネット補修終了し、ペリカンほか放鳥。
4 /25 ☂ チンパンジー展示場に「ドラ」設置。
4 /26 ☼ ライオン「ララ♀」展示中、様態が急変し循環不全のため死亡。
4 /27 ♣/☂ シフゾウ「アオイ」多摩動物公園より来園、ムフロン３頭多摩動物公園へ搬出。
4 /30 ☼/♣ シフゾウ展示場にて「アオイ」と「マリー」同居。
5 / 1 ♣ カンガルー「トベ」化膿性胸膜肺炎のため死亡。
5 / 5 ☂ ボリビアリスザル「搬入個体♀」出血性腸炎のため死亡。
5 / 6 ♣ ホンドフクロウヒナの鳴き声を確認。
5 / 8 ☼ トナカイ「角あり♀」が出産。（生後体重５ kg、性別♂）
5 /17 ♣ アビシニアコロブス出産。
5 /19 ♣/☂ シュバシコウ１羽ふ化確認。
5 /23 ☂ トナカイ「角なし♀」が出産。（生後体重 5.5kg、性別♂ス）
5 /24 ♣ シュバシコウ１羽ふ化確認。
5 /28 ☂ シュバシコウ１羽ふ化確認。
5 /29 ♣ ホオアカトキ無事に巣立ち。
6 / 4 ☼ ボリビアリスザル「♀1」出血性壊死性腸炎のため死亡。
6 / 8 ☼ キョン繁殖。生後まもなく衰弱死。
6 /11 ☼ ワピチ繁殖。

飼育動物数

	種類	点数
哺乳類	62	356
鳥　類	60	253
爬虫類	14	41
両生類	4	17
魚　類	4	24
合　計	144	691

（平成18年５月末現在）

編集後記

春の動物ふれあいフェスティバルなど、春のイベントが終わりましたが、夏のサマースクールや夜間開園などの準備で息つく暇もありません。動物園は一年中活動しているのだと感じます。より多くの方々に楽しんで頂けるよう、職員が様々な工夫をこらしていますので、ぜひご来園ください。　西村　裕之

飼育レポート

ホオアカトキの繁殖

飼育展示担当　松井　　健

【左側　巣立ち前のヒナ】

大森山動物園のホオアカトキは、2005年４月に東京都恩賜上野動物園からオス３羽メス３羽を寄贈していただいた個体である。来園してトキ舎に収容した直後から落ち着いた様子で、2005年４月23日に巣箱（48×47×66cm）を設置するとすぐに営巣を始め、25日には産卵・抱卵した。５月21日にふ化を確認、親と同じ黒い羽も生えそろい順調に育っているものと思った矢先、巣立つ直前の７月７日に巣から落ちて死亡した。なぜ落ちたのか原因は不明であった。

今年は冬の間から、数十センチに切った竹枝などの巣材を十分展示場に入れて繁殖期に備えた。すると２月中旬頃から巣箱に巣材を運ぶようになり、去年より1ヶ月以上も早い３月６日には産卵がみられた。その後は雌雄交代で約1ヶ月間一生懸命抱卵し、４月３日に巣の下に卵の殻を発見、ヒナがふ化したことを確認した。去年ヒナが途中で死んでしまった原因が分からないまま、餌の量を増やしたり（スズメとネズミがトキの餌を食べるため）、普段の時期は与えていないオキアミやドジョウを追加したり工夫しながらヒナの成長を見守ったところ、今年は５月29日に無事に巣立ちを迎えることが出来た。去年何が悪くて、今年何が良かったのか、担当者としていまだにわからない事ばかりだが、営巣時期の変化や餌の改善が繁殖の成功に結びついているものと考えている。これからも大いに勉強して、ホオアカトキと同居展示している、ブロンズトキやショウジョウトキの繁殖を目指して頑張りたい。

アシカの離乳成功例

飼育展示担当　柴田　典弘

昨年の６月４日に生まれたカリフォルニアアシカのナナミ（メス）。生後半年を過ぎた頃から、自力採食によって離乳させようと試行錯誤を繰り返してきた。当園で与えている餌は解凍のアジとホッケの２種類。ナナミの両親の嗜好性から、「アジでは難しいが、ホッケならば可能性はあるだろう」と密かに期待していた。もちろん、ただプールにそのまま投げ入れたり、顔の前に持っていくだけでは厳しいだろうと考え、すり身にしてみたり、様々な大きさに切ってみたり、凍らせてみたり。さらには、あたかも魚が水中を動いでいるかのようにヒモをつけて引っ張り回したり、ヤリイカやホタルイカを与えてみたりと、ナナミが少しでも関心を示す対象を見つけると毎日の餌やりの中で即実践していた。

そんな中、生後約10ヶ月齢を迎えた４月上旬、ようやくホッケを噛み砕くような行動が見られるようになり期待は一気に膨らんだが、残念ながら餌は水中に吐き出されていた。

自力採食による離乳訓練のリミットは1年間。母のお乳がまだ出ているのか心配なこの時期、エサを食べることができなければ、やはり強制的に飲み込ませることも考えざるを得ない。「できることなら自然に離乳して欲しい」と強く願ってきた自らの思いと現実との狭間で葛藤する日々が続いた。

間もなく生後1年の「リミット」を迎えようとしていた５月30日のこと、水際に明らかにナナミのものと思われる小さな糞を発見。母乳だけの糞と違い、魚を食べたことが分かるしっかりとしたものであった。その日以降、ホッケを激しく横に振り、ちぎれた身を飲みこむ行動が見られるようになっただけでなく、手に持っているホッケを直接引きちぎりながら食べるようになった。そして生後1年をわずかに過ぎた６月16日、遂にホッケを「頭から」丸飲みする姿が確認できた。

自力採食による離乳が成功した最大の要因としては、やはりホッケに対する嗜好性の高さが挙げられるが、餌をくわえさせるために実施してきた様々な努力も欠かせないものだったと感じている。

かたばた通信

【エサやり体験】

動物との会話を楽しんで頂けるように、有料エサやり体験サービスを４月から実施しています。来園された方が自由な時間にエサやり体験を楽しめるように毎日実施しているサル山、ヤギ・ヒツジ、ラクダ、ハクチョウなどの他に土・日・祝日限定でペンギン、アシカ、キリンにもエサやり体験ができるようになりこちらも好評です。

ペンギン10:45から限定20カップ、アシカ11:15から限定20カップ、キリン13:30から限定30カップを販売します。※動物の体調等により中止になる場合もあります。

【笑顔でキリンとの会話を楽しむ子どもたち】

【春の動物ふれあいフェスティバル】

６月４日は、10種類の動物が入園者の目の前を練り歩いた「動物パレード」、ヒントマンが登場した「お願いヒントマン！ウォーククイズ」、キーパーとのコミュニケーションの場となった「まんまタイム」など様々なイベントを開催し終日たくさんの入園者でにぎわいました。

【動物パレード風景】

お知らせ

「第29回親と子のふれあい写生大会」開催

平成18年７月27日（木）受付８:30～12:00　作品提出は14:30まで

小雨決行、雨天の場合は翌日７月28日（金）に順延となります。

「夜の大森山動物園」開催

平成18年８月14日（月）～17日（木）の４日間

昼の部　９:00～16:30（入園は16:00まで）
夜の部　17:30～21:00（入園は20:30まで）

ナイトZOOジャズフェスタinミルヴェ　ー守ろう秋田のゼニタナゴー開催

エフエム秋田　ほろ酔いジャズナイト スペシャルトーク＆ライブ

平成18年８月16日（水）時間：19:00～20:30　場所：園内ピクニック広場

※雨天の場合は翌日８月17日（木）に延期となります。

発 行 所　秋田市大森山動物園　〒010-1654 秋田市浜田字潟端154 TEL018-828-5508 FAX018-828-5509
発　　行　小松　守　　URL http://www.city.akita.akita.jp/city/in/zo/　E-mail ro-inzo@city.akita.akita.jp
編集委員　木村俊夫、千葉直子、西村裕之、阿部杏子、高橋広志、柴田典弘、安永千秋
印　　刷　株式会社 フロム・エー